

同志社大学国文学会彙報

昭和五十四年度国文学会活動状況

△教育問題懇談会▽（八月十八日・京都教育文化センター）

高校「学習指導要領」改訂の問題点

北川 正 始（大阪府立三島高校）

△生活指導▽の諸問題

四 条 文 子（光華女子高校）

藤 原 則 幸（大阪市立桜宮高校）

松 四 明（大谷女子中学校）

犬 島 良 二（大阪市立茨田中学校）

△総会・研究報告会▽（十一月二十三日・京都府立勤労会館）

・研究発表

乞食者詠二首―その笑いの構造から―

尾 崎 千 春（本学大学院生）

平安時代仮名文にみえる漢語動詞の一考察

浅 野 敏 彦（大阪成蹊女子短大）

・実践報告

古典教材自主編成のひとつのあり方

―「南山城の文学」の編集にあたって―

中 里 隆 憲（京都府立城陽高校）

昭和五十三年卒業論文題目

△日本文学古代前期▽

『古事記』神語歌の一考察

万葉集挽歌の成立

万葉集における「歌語り」と「歌物語」

近江荒都歌試論

高市黒人論序説

高橋虫麻呂論

―抒情詩による説話的志向の表現―

大伴坂上郎女

狭野茅上娘子と中臣宅守の贈答歌

萬葉集東歌

△日本文学古代後期▽

「靈異記」から「三教指帰」へ

伊勢物語における愛とみやび

『昔男の人間像とその本質』（伊勢物語）

『古今集』にみえる小野小町

西 橋 一 也

坂 井 成

塩 見 啓 子

池 田 秀 樹

黒 崎 晃 一

上 田 ま ゆ み

寺 島 晶 子

高 橋 朋 子

竹 中 有 紀 子

沢 田 善 次

加 藤 義 明

矢 口 信 子

服 部 千 佳 子

古今和歌集四季の部・春

桜における第三相美意識否定の理由

「土佐日記の方法」

更級日記

『枕草子』における詩歌の研究

紫式部の人物像―性格の変容と悩みの救い―

紫式部の厭世的心情について

家集における紫式部―哀傷歌をめぐる内面―

「紫式部日記」―生への模索―

「紫式部集」の編纂意識

私家集に見られる紫式部像

―知己を求める紫式部―

紫式部日記の消息文的部分をめぐって

―その形成と展開―

紫式部の人間像

紫式部の「憂し」

源氏物語の自然―その色彩の表象―

六条院物語試論

源氏物語の表現と音楽

―若菜巻・女楽をめぐって―

源氏物語の女性論

女三宮存在のもつ六条院世界暗部への視座

源氏物語第三部世界試論

「源氏物語の宇治」

女三宮物語の構想

堤中納言物語の方法

〈日本文学中世〉

建礼門院右京大夫集にみられる

中古から中世への変容

藤原定家について

式子内親王の歌の世界

「方丈記」ノート

―その住居観を中心にして―

「方丈記」にみる長明像から

徒然草―その文学性について―

「徒然草」その無常の世界

「維盛譚の考察」

平家物語―その本質の人物論的考察―

曾我物語における仏教文学性と

仇討文学性について

小滝由美子

松田 薫

森 俊樹

大八木 喜美子

山田 圭子

由良真利子

大西 通子

中西 孝枝

中西 孝枝

中谷 久美子

有光 澄

土井 直子

井上 薫

佐々木 葉子

梶垣 義昭

梶井 美保子

鎌田 恭年

稲熊 裕之

福田 勝光

福地 紳子

山下 千秋

上山 裕子

佐藤比登美

奥田三津子

岡田佳代子

西岡百合子

北濱 俊子

石田 厚子

安藤 順子

榎田 富美子

高原 葉子

西村 郁子

緞 頼友国

緞 頼友国

『曾我物語』真字本と仮名本の物語の方法  
女狂言の成立とその性格  
——大藏流台本による——  
山内典子

上田秋成における人間認識

——政治的敗北者の系譜——

音場 玲子

狂言に見る中世の人間像

浅海 章子

「或る女」試論

天羽 淑子

御伽草子ノート——庶民文学の先駆け——

深 まさ子

『樋口一葉の日記』

梅沢 靖恵

### △日本文学近世▽

さんせう大夫研究史——二つの方法を中心に——

上田 巖

北村透谷論——透谷の「文学」像と文学史——

木村 和彦

『好色一代男』における「笑い」について

佐藤志文香

与謝野晶子「みだれ髪」論

奥田 裕子

『好色五人女』

夏目漱石論

——「情を入れし樽屋物語」を中心に——

森 裕紀子

——近代的知識人の自我と、

橋本 徳之

好色一代女——『徒然草』との関係——

山村 泉

人間存在の淋しさについて——

高倉佐代子

「心中物の私娼における近松の方法」

元持寿美子

「道草」試論

宮本真美子

近松門左衛門作『薩摩歌』論

小西 准子

「宮沢賢治の内部意識

西野 敏郎

——『丹波与作手綱帯』との関係をめぐって——

松尾 渉

「宮沢賢治の童話」

宮下 薫

「曾根崎心中」試論

玉奥章一郎

梶井基次郎論

水上 博雄

心中重井筒一考

玉奥章一郎

梶井基次郎論——性の側面とその文学——

伊藤 竜雄

「国姓爺合戦」の成功について

別所 篤

太宰治——前期から中期への軌跡——

松井美茶子

——「国姓爺後日合戦」論を中心に——

海野 昌子

織田作之助論

錦田 達三

「心中天の網島」——女同士の義理——

海野 昌子

「女殺油地獄」——与兵衛の性格について——

碓井 幸子

立原道造論——抒情の世界をめぐって——

山田 敦子

谷崎潤一郎「細雪」について

竹尾啓子

昭和五十三年修士論文題目

『谷崎潤一郎の求めた女』

山本裕子

伊勢物語の人物呼称

段上修二

石川達三の創作方法

柴田洋子

古今和歌集四季歌の方法と自然観

橋本昌代

井上靖論

松江法子

源氏物語第三部の主題と基本的構造

小島繁一

井上靖の歴史小説に関する基本的考察

高橋敏

―神話的類型の相対化と人間的課題―

小島繁一

中村真一郎論

保井伸介

「今昔物語集」観音信仰説考

野口裕子

埴谷雄高論

山根佳史

―卷十六をめぐる―

野口裕子

高橋和巳「悲の器」論

小沢泰明

将門記の構造

柳田洋一郎

今江祥智試論

吉見昌代

平家物語の伝承構造

谷口広之

〈国語学〉

正倉院文書小考―変体漢文としての性格―

斎藤秀幸

「傾城吉岡染」の方法

山田和人

倭名類聚抄における和語

中尾晴美

―鬼界ヶ島流人譚をめぐる―

田中励儀

―漢語との比較から―

川端婦起子

―宝永期時代浄瑠璃の展開を中心に―

田中励儀

現代語における居体言の構造と拍数

太田道宏

鏡花「雪柳」論―怪異空間醸成への道―

田中励儀

現代新聞・雑誌の漢語表記

太田道宏

―混ぜ書き、仮名書きを中心に―

太田道宏

幸田文の文体

根本恭子

―その会話的感性的性格について―

根本恭子

同志社国文学 第十六号

昭和五十五年三月二十日 印刷

昭和五十五年三月二十日 発行

編集 玉村文郎

発行 同志社大学国文学会

(代表) 南波 浩

京都市上京区今出川通烏丸東入

振替 京都二七三七

印刷所

共同印刷工業株式会社  
京都市右京区西院久田町